

## 【日本の家紋】

私たちの祖先は、<sup>しんらばんしょう</sup>森羅万象をとり入れ紋章を創造し、<sup>ゆうきゆう</sup>悠久に生きる願い、子孫繁栄の願いを託し、家紋として子孫に伝えました。そして、公家社会・武家社会の歴史を経て、脈々と受け継がれてまいりました。

公家の家紋の起源は、平安時代にあり、<sup>ごしよぐるま</sup>御所車や調度品・衣服等に用いた自分好みの文様（複雑繊細・写実的な図様）が一族全体に及び、家紋として定着し、さらに武家紋の影響を受けながら発展し、子孫に受け継がれていきました。こうした文様の図様の起源は奈良時代以前にあると思われます。

武家の家紋の起源は、鎌倉時代初期にあり、敵味方を識別するために<sup>はたさしもの</sup>旗指物や<sup>じんまく</sup>陣幕等に用いた印（単純明瞭な図様）が次第に苗字の目印となり、家紋として定着してきました。そして、戦国時代の世となり、家紋は武家の隆盛と共に急速に発達し、戦場における<sup>じこけんじよく</sup>自己顕示欲のため広く普及したようです。室町時代後半から<sup>すおうだいもん</sup>素襖や大紋等武士の衣服に家紋を付けるようになり（<sup>うわえ</sup>上絵による初期のものと思われる）、公家紋の影響を受けながら形も整ってきました。安土・桃山時代に入り武士の礼装である<sup>かみしも</sup>袴等に使用されるようになり、大きさも現在に近いものになりました。江戸時代になると平和が続く家紋は武家の象徴を表わすようになり、明治時代にはすべての人に苗字が許されたことにより、どの家でも家紋を持つようになりさらに普及するようになりました。

手描き紋章は、文廻し・面相筆・スミ染料・刷毛等を用い十年以上の修業により修得した「紋型彫り」「色合せ」「摺り込み」「線描き」等の伝統技術を総合駆使した、「紋章上絵師」が一筆一筆心を込めて生きた家紋を描き上げています。

近年製作工程が、根本的に違う簡単なスクリーンプロセス印刷等がありますので、手描き紋と印刷紋の違いをよく認識してください。

### 【国選択無形文化財 紋章上絵保存会】

紋章上絵保存会は、全国の手描き専門紋章上絵師によって日本固有の伝統技術「紋章上絵技術」の技術保存・後継者育成などを目的に結成され、昭和50年4月には、国の無形文化財に選択されています。

当会では、「紋章上絵技術の保存伝承」を目的として、『小田原城紋章展』や実演による技術公開を始め、さまざまな活動をおこなっています。

この『小田原城紋章展』は、昭和57年度から開催され、今年度で30回目を迎えました。

展示をご覧いただいた皆様には、日本特有の伝統技術・紋章上絵技術の保存伝承にご理解とご協力をお願いいたします。

特別展 第30回 小田原城紋章展

戦国武将の紋章 ～小田原合戦に参戦した武将たち～

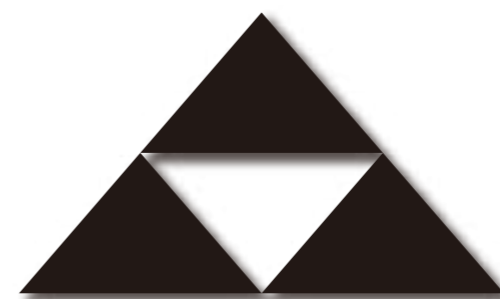
編集発行 小田原城天守閣 小田原市城内6-1 TEL 0465-23-1373

発行日 平成23年7月30日

平成23年度小田原城紋章展

# 戦国武将の紋章

～小田原合戦に参戦した武将たち～



北条家（氏政・氏直）



豊臣家（秀吉）



徳川家（家康）



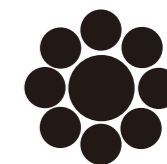
大久保家（忠世）



榊原家（康政）



長宗我部家（元親）



細川家（忠興）



蒲生家（氏郷）



織田家（信雄）



黒田家（如水）



宇喜多家（秀家）



堀家（秀政）

会期 平成23年7月30日（土）～9月11日（日）

会場 小田原城天守閣（中4階特別展示室）

手書実習 7月31日・8月7日・14日・21日・28日（天守閣4階）

主催 小田原市・国選択無形文化財紋章上絵保存会

